

## ＜シンポジウム 20＞神経内科領域における終末期の倫理的問題について

### ねらい

座長 北里大学医学部神経内科学, 北里大学東病院神経内科 荻野美恵子  
新潟大学脳研究所臨床神経科学部門神経内科 西澤 正豊

(臨床神経 2010;50:1025)

平成 21 年 3 月に全神経内科専門医約 4,500 名を対象にアンケート調査をおこなったところ, 約 1,500 名, 3 人に一人の回答を得, ALS 終末期ケアに対する関心が高いことがわかりました。21% がモルヒネの使用経験ありと回答しましたが, 約半数は独学で始めていました。神経難病に対するモルヒネはがんと異なる面があるため, 注意を喚起し, 教育する機会を設ける必要があると思いました。とくに安楽死との混乱が患者側にも医療側にもあるため, 概念の理解や解釈の注意点などについてしっかりと把握する機会を作るべきであると考えます。

また, 昨今相次いで判決がでたことでニュースになっている終末期の人工呼吸器取り外しについても調査したところ, 21% が呼吸器をはずしてくれと頼まれたことがあると回答していること, 回答者の 59% が条件付きで容認できると回答していることから, 神経内科専門医が直面する機会の多い問題であることも浮き彫りとなりました。一歩まちがえば犯罪

とされかねない状況のなかで, 法的にはどのように解釈されており, 当事者や国民的感情にはどのように配慮すべきであるかなど, 実際に現場で悩んでいる多くの神経内科医や患者家族を守るためにも, 現況を整理して, 教育, 啓蒙, 議論する必要があります。アンケート調査回答者の 20% が自由記載をし, 切々と悩みや意見を書いていただきました。また, ここ数年, 多くの他学会も終末期の問題を総会で取り上げて議論しています。終末期の問題に直面しやすい神経内科分野においても考える場を共有するために, このシンポジウムを企画しました。

まず呼吸器を外してほしいと要望している ALS 患者さんのビデオを紹介し, 問題提起とし, アンケート調査の結果をご報告したあと, 生命倫理的観点および法的観点からご報告いただく予定です。その後限られた時間ですが会場のみなさんとディスカッションしたいと思います。たくさんの方のご参加をお願いします。